



—東地中海地域ニュース—

アフガニスタン：アブドゥラー候補の大統領決選投票不参加（11月1日付 Pajhwok 通信）

11月1日、アブドゥラー候補は支持者集会において、11月7日の決選投票への不参加を表明した。同集会はカブール市内のロヤ・ジルガで開催され、同候補の支持者やメディア関係者3,000名余が参加した。1日付現地 Pajhwok 通信が伝えた報道の概要は以下の通りである。

1. アブドゥラー候補は、IEC（独立選挙委員会）がカルザイ候補寄りの立場を取っていると非難し、11月7日の決選投票には参加しないと声明した。アブドゥラーは、IECが8月20日に実施された大統領選挙の第一回投票において広範囲な不正行為を行ったと主張した。
2. アブドゥラー候補による声明は、決選投票参加の条件に関する回答期限の5日間を過ぎた後に出された。アブドゥラーは、IEC（関係者）の変更に関する要求が受け入れられなかったと述べた。
3. 他方、アブドゥラーは支持者たちに対して、決選投票への参加をボイコットするよう呼びかけはしないであろう。アブドゥラーは、アフガニスタン国民は現在のIECによる選挙結果を受け入れるべきではないと述べ、政権の期限が過ぎた今年5月以降、カルザイ政権は正統性を有していないと述べた。
4. アブドゥラーによる声明は、クリントン米 국무長官がアブドゥラーによる決選投票のボイコットが決選投票を非正当化することはないであろうと述べた後に出された。クリントン米 국무長官は、デイリー・テレグラフとのインタビューにおいて、このような状況は前例がないことではなく、多くの国で起きていることであると述べた。